

## 総務財政委員会行政調査報告（令和5年度）

総務財政委員会委員長 吉田 健吾

### 1. 日程

令和5年8月1日～8月2日

### 2. 調査項目

#### (1) 茨城空港（8月1日）

- ・茨城空港の概要、運営等について

#### (2) つくば市役所（8月1日）

- ・行政におけるチャットGPTの利用について

#### (3) 柏の葉スマートシティ（8月2日）

- ・自動運転バス視察便乗車
- ・柏の葉スマートシティの取り組みについて

### 3. 委員長所見

#### 【茨城空港】

チャーター便の実績が豊富な茨城空港にヒアリングを実施。チャーター便を増やす仕掛けや空港施設の多目的利用などについて伺った。チャーター便は最終的には定期便に繋げていきたいことや、空港施設は広大な駐車場（3,600台分）を利用した各種イベントを開催しているとの説明があった。チャーター便の仕組みとして「旅行会社が航空券を買い取っている」点が鍵であることが分かった。この仕組みにより、旅行会社が様々な手段を用いて航空券チケットを捌こうとするので、自治体としては旅行会社に対して、いかに魅力的な観光ポイントやロジスティクスを提案できるかが重要になってくる。その点、茨城県としてはインバウンド部署が中心となって、旅行会社に対して「見所ツアー」を定期的に開催しているとのことであった。県内での宿泊付きで開催することもあり、ツアーバスの駐停車ポイント、効率的な観光ルートの提案を積極的に行っておられ、視察当日もタイの旅行会社の方々がそのツアーに参加されていた。また、空港施設の多目的利用では、「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで」や「半沢直樹」など人気コンテンツのロケ地としての提供や、広大な駐車場を利用した「クラシックカーやバイクイベント」での敷地提供を行っているとの説明があった。茨城空港は、強みとして、広大な駐車スペースを生かした「自家用車や路線バス」などクルマ利用者をターゲットとしている。近隣の羽田空港や成田空港は鉄軌道アクセスが中心であり、それらと差別化を図ることにより独自性を出しておられた。採算面でも黒字化しており、収益面における空港施設の多目的利用の重要性を理解できた。



### 【つくば市役所】

つくば市役所全体で導入しているチャットGPTの利活用について話を伺った。特に、つくば市役所の顧問でもある筑波大学の鈴木教授とともに開発したシステムによって様々な行政側としてメリットのある仕様に仕上げられておられ、その概要を聞かせていただいた。行政側として、やはり気を付けておかなければならない情報漏洩の側面であるが、マイナンバーを入力しようとすると警告が出る、AI側に入力情報を学習させないシステムとなっている、回答に出典（インターネット上のどこからその文章を引っ張ってきたか）が分かる機能をオンしている、国内にサーバー拠点を持っている業者をパートナーとして選んでいることなど、様々なバリアを張っておられた。また、それを操る人材面として、市役所におけるIT人材の登用についても教えていただいた。つくば市役所の情報政策課のメンバーは総勢12名とのことであるが、粒ぞろいとのこと、総務省の「地域情報化推進アドバイザー」に2名が選ばれているのに象徴された熱意のある職員が多い。つくば市役所全体の採用特徴であるが、新卒採用と中途採用が半々くらいの割合であり、特段ITに限った採用はされていない。IT分野という日進月歩の世界では「勉強し続ける」熱意と覚悟があれば、どのようなバックグラウンドであっても対応できるという力強い言葉をいただいた。



### 【柏の葉スマートシティ訪問】

三井不動産が手掛ける柏の葉キャンパスシティ駅を中心としたスマートシティの取り組みについて話を伺った。現在、柏の葉スマートシティ一帯には、約4,400世帯（11,500人）が居住しており、2030年には1万世帯（26,000人）まで増加する見込みであり、環境共生都市・健康長寿都市・新産業創造都市を掲げ、成長し続けているエリアである。様々な仕掛けをされており、居住エリアとしてツインタワーマンションがあるが、1棟が分譲、もう1棟が賃貸となっており、賃貸側には保育園や学童保育施設が併設され、市民参加型の健康情報発信拠点である「まちの健康研究所あ・し・た（あるく・しゃべる・たべる）」と物理的に繋がっており、エリア全体で健康寿命を底上げする仕組みを築いている。1棟を賃貸とし、居住者を循環させることで、分譲による固定化（高齢化）を防いでいるとのことであった。また、スマートシティの中核施設のひとつに「KOIL」という異業種交流の場がある。ここには、「コミュニティマネジャー」という役割を持った人が常駐しており、多業種同士を繋ぐ使命を果たしている。さらに、「街のすこやかステーション」も特筆すべき施設であり、予防医療をテーマに掲げ、ヨガやフィットネススタジオなどが集積している。テナント募集時には予防医療を前面に掲げ事業者を募集し、様々な特徴を持った施設が集まった。その一つに、柏の葉小児歯科があり、虫歯のない子どもを目指して、子どもが通いたくなる歯医者を目指し、ユニークな仕掛け（通院スタンプを集めたら豪華衣装で写真撮影できるなど）を行っていた。アクセス面では、自動運転バスの実証実験を続けており、柏の葉キャンパス駅から東京大学柏キャンパスまで約2.6kmの間を運行している。自動運転レベルは2であり、路上駐車や工事現場があると手動に切り替える必要はあるものの、次世代型環境都市を目指し、日々実験を重ねておられた。乗り心地は快適であり、交差点もスムーズに運行し、急ブレーキ等の危険な状況は見受けられなかった。三井不動産と千葉県・柏市が同じ方向を向いて開発を続けているため、まちの植栽や道路整備なども、他都市と比べ進むスピードが速いとのことであった。居住マンションも常時ほぼ満室状態であり、スマートシティ構想の成功事例と言える。

